

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	1月	21日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	桜井市：文殊院の本堂(礼堂付)附絵画板壁2面、木造釈迦三尊像など				

所在地	桜井市阿部645				
所有者(取材 対応者)名	文殊院 大丸真明(おおまるしんみょう)執 事(個人情報守秘)		連絡先 電話0744-43-0002		
			PCアドレス —		
取材申込	申込先・行政名など：文殊院				
市町村 指定文化財	彫刻	2軀	木造釈迦三尊像 1996(平成8)年3月4日指定、 木造大日如来坐像 同上		
	建造物	1棟	本堂(礼堂付)附絵画板壁2面 1996(平成8)年9月27日指定		
文化財指定理由	本堂：江戸時代初期の本堂と礼堂が一体となった数少ない貴重な建物である。 木造釈迦三尊像：室町時代後半の像で多武峰旧妙楽寺の伝来像としても貴重。 木造大日如来坐像：10世紀末から11世紀頃の和様化の貴重な作例とみられる。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂には5軀の国宝があり、火災報知器、消火器など防火対策は十分取られている。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	獣害についても、本堂に入り込むような状況にない。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	文殊院は快慶作の騎獅文殊菩薩をはじめ5軀の国宝を有する、日本三文殊の第一霊場として多くの人の信仰を集めている。花の広場のコスモス迷路、パンジーを使った干支を描くジャンボ花絵など季節毎に楽しめる場所にもなっている。取材対象の仏像を安置する本堂は、国宝等も安置することもあり保存上問題となることは見当たらない。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

取材対象の木造釈迦三尊像は多武峰の旧妙楽寺の本尊。木造大日如来坐像は旧安倍寺伝来と、いわれの深い仏像。大丸執事によれば、木造大日如来坐像は痛みが激しく移動すると本体が毀損する可能性もあるとのこと。本堂内陣の改修も予定されているとのことであり、その際には修復により保存の環境を整えることも検討して頂きたい。また、訪れる人に知ってもらいたい仏像でもあり、パンフレットへの記載や説明冊子の作成などを望みたい。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2024年	1月	21日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	桜井市：文殊院の本堂(礼堂付)附絵画板壁2面				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 本堂(礼堂付)附絵画板壁2面	
本堂 (正面写真)	本堂(角度を変えて)
	
絵画板壁 2面	礼堂
本堂内大収蔵庫に保管されており写真撮影は不可。	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入
本堂(礼堂付)は元安倍寺満願寺の本堂で、江戸時代1665(寛文5)年に再建され現在に至っている。七間四面の入母屋造りの本瓦葺に加え礼堂が附設しており、更に本堂奥に1973(昭和48)年に完成した文殊菩薩を安置する大収蔵庫がある。附足の絵画板壁2面(普賢菩薩と文殊菩薩の絵)は以前は内陣の左右の板壁となっていたが、現在は、大収蔵庫に向かって右側に重ねて保管されている。(文殊院パンフレット参考)	645(大化元)年に安倍倉梯麻呂(あべのくらはしまろ)が安倍一族の氏寺として、安倍山崇敬寺(安倍寺)を建立。現在の寺の南西約300mの地に大寺院として栄えていた。その後、鎌倉時代に現在の土地に移転され大和十五大寺として栄えた。1563(永禄6)年松永弾正の兵火により焼失、1665(寛文5)年現在の本堂が再建、文殊菩薩(国宝)を御本尊とし、現在も人々の信仰を集める祈祷寺としてその法灯が守られている。(文殊院HP参考)

市町村指定文化財取材票《裏》②

取材日	2024年	1月	21日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	桜井市：文殊院の木造釈迦三尊像				

仏像写真は文殊院より提供。(掲載許可済み)

文化財指定名 木造釈迦三尊像

文化財 (正面写真)	文化財が安置されている釈迦堂(本堂東側)
------------	----------------------



文化財が安置されている釈迦堂(本堂東側)

光背の宝篋印塔



光背に付けられた宝篋印塔は、多武峰妙楽寺にある塔を模したのもとも言われ、本仏像が多武峰妙楽寺からの客仏であるしるし、とも言われる。

文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

明治維新の神仏分離で多武峯妙楽寺(現在の談山神社)の本尊を引き取ったもので、中尊像に等身の脇侍が従う三尊像。釈迦像高165cm、右脇侍160.3cm、左脇侍164.5cmで室町時代後半の制作と考えられる。胎内に1669(寛文九)年の修理銘がある。いずれも檜の寄木造、玉眼嵌入、肉身部に金泥、衣部を漆箔としている。仏像の形から本来は阿弥陀三尊であった可能性も考えられる。
(桜井市史を参考)

取材票(裏面)①と同じ。

市町村指定文化財取材票《裏》③

取材日	2024年	1月	21日	(記入者) 鶴田吉範	
取材参加者	荒井	垣内	喜多	久門	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	桜井市：文殊院の木造大日如来坐像				

仏像写真は文殊院より提供。(掲載許可済み)

文化財指定名 木造大日如来坐像	
文化財(正面写真)	文化財が安置されている本堂
	
干支を描くジャンボ花絵	
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入
<p>檜材の一木造で、両肘までを含む頭体の根幹部を一材から彫成し内割せず、現状はほとんど素地を呈している。簡素な彫法を見せ、漆箔ではなく彩色仕上げとしている。やや胴長で各部にふくらみがあり、上膊も太く一木像らしい造りとなっている。智拳印を結ぶ金剛界大日如来像。寺伝によれば、元安倍寺知足院の本尊と伝わる。(桜井市史を参考)</p>	<p>取材票(裏面)①と同じ。</p>